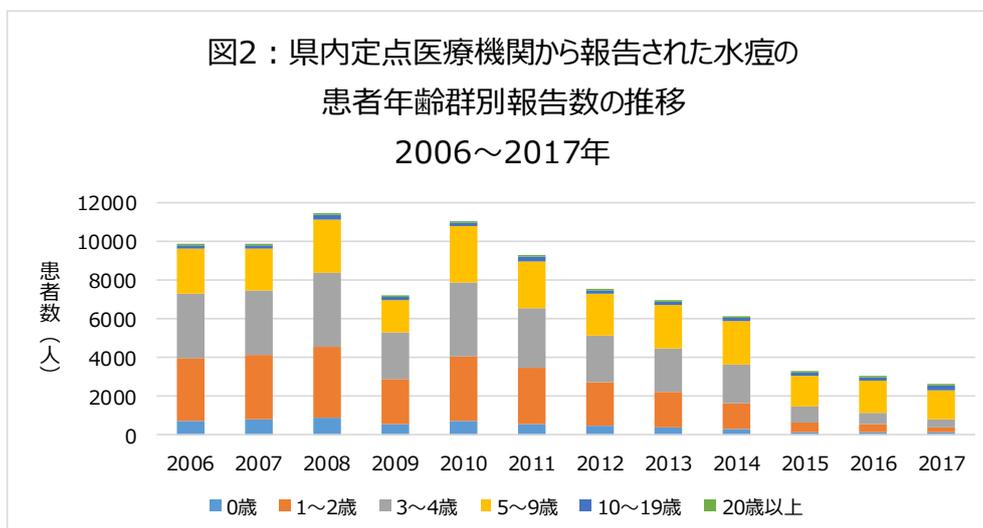
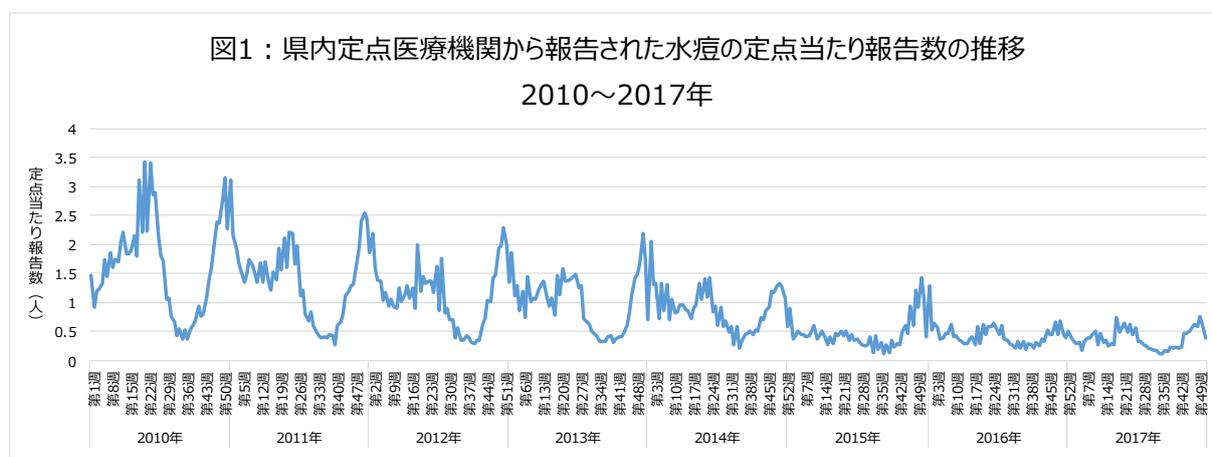


## 【今週の注目疾患】

### 【水痘】

2018年第18週に県内定点医療機関から報告された水痘の定点当たり報告数は定点当たり0.23(人)であった。大型連休期間中のため受診行動等が平時と異なり、定点把握疾患の定点当たり報告数は他の感染症も含め多くが前週と比較し減少したが、第17週に水痘の定点当たり報告数は定点当たり0.55(人)と2018年に入り最も報告が多く、連休明けの動向には注意が必要である。

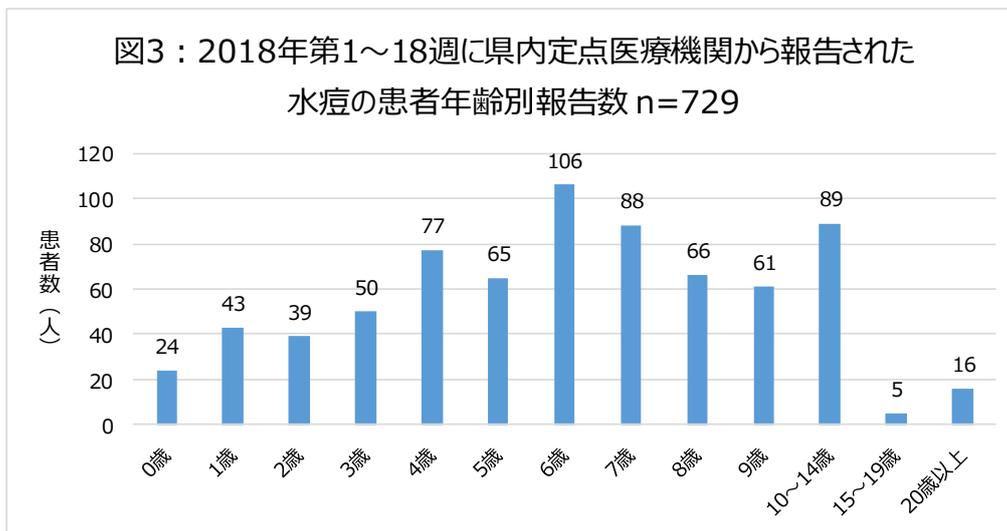
水痘の報告は、2014年10月1日から水痘がそれまでの任意接種から定期接種対象疾患(A類疾病)となり、生後12～36か月に至るまでの児を対象に2回のワクチン定期接種が開始され、定期接種開始以降には冬・春における報告数の大きな増加は見られなくなった(図1)。特に定期接種対象が含まれる年齢群において報告が大きく減少し、また0歳についても報告数は減少した(図2)。



2018年は第1～18週に729例が報告され、6歳の106例(14.5%)が最も多く、次いで7歳88例(12.1%)となりピークを形成している(図3)。

また水痘については、入院例の全数報告が定期接種化に先立ち2014年9月19日から開始されている(水痘で24時間以上入院したもの(他疾患で入院中に水痘を発症し、発症後24時間以上経過した例を含む)が対象)。サーベイランス開始以降、県内では28例の水痘(入院例)が届け出られており、2014年4例、2015年5例、2016年3例、2017年8例、2018年は第18週まで

に8例となっている。性別は男性17例、女性11例となっており、年齢群別では0歳1例、1～2歳3例、3～4歳1例、5～9歳1例、10代1例、20代4例、30代6例、40代4例、50代3例、60代2例、70代1例、90代1例となっている。0～9歳の6例については、ワクチン接種歴無し2例、ワクチン接種歴1回2例、ワクチン接種歴2回1例、不明1例であった。合併症等については、肺炎・気管支炎が1例、肝炎1例、膿痂疹3例、敗血症1例、脳神経障害1例などがあつた。妊婦水痘例はなかった。



定期接種化により乳幼児の患者数は減少しているが、今後は年長児・成人例の動向にも注意が必要である。